

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	愛知淑徳大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	アイチシュクトクダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	海外インターンシップ
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	長岡みか／助教福田紗也／助教
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	7
	受入企業等名	株式会社日本旅行Pasona Taiwan Co.,Ltd他4社
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が大学で学んでいる語学(英・中)の実践の場として、ならびに企業の実務のOJTの場としての就業体験を行う。事務作業や電話対応などの基礎的な就業体験に加えて、企画立案のプレゼンテーションを実施する企業もあり、社員とのコミュニケーションを兼ねたディスカッションならびに社員に対するプレゼンテーションも行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2～3年生を対象に、夏期・春期休業中、ハワイは2週間、台湾は4週間の研修期間を設け、「海外インターンシップ」という授業名のアクティブラーニング科目として実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	担当教員と学生がメールや電話で連絡を取り合っている。また、担当教員が必ず現地へ同行し、研修中に企業へ赴く。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前講習会で海外渡航における危機管理コンサルタントによる「危機管理セミナー」を必ず受講させ、海外インターンシップの意義・目的の理解・リスク管理の重要性を認識させている。これにより、研修前の学生の意識やスキルを高めている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習で明確にさせた目標を、研修中に記載させる日誌によって、毎日目標達成の状況や成長を振り返らせている。研修後は、報告会を実施している。また、年に1回、企業担当者100名以上を招いて「インターンシップ公開報告会」を実施し、学生に研修の成果を発表させている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当教員と学生がメールや電話で連絡を取り合っている。また、担当教員が必ず現地へ同行し、研修中に企業へ赴く。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「進路選択に対する自己効力」を研修前と研修後のそれぞれでアンケートを実施・測定・比較し、その結果をインターンシップ公開報告会で企業に報告すると共に「アクティブラーニング」という学内論文誌に掲載し公表している。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	2週間～4週間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	台湾でのインターンシップ/期間4週間ハワイでのインターンシップ/期間2週間
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	現地で成果報告のプレゼンテーションをする場を設けている企業もある。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	台湾のインターンシップ研修では、現地企業主導のもと、現地到着時に学生へ向けた「社会人マナー」「現地事情の事前レクチャー」などの現地サポートの場が設けられている。また、実習期間中の実習状況が、企業から大学へ報告されると共に、企業からの評価シートを作成していただき、学生にその評価をフィードバックし、教育的効果を高めている。海外インターンシップ全体では、受入企業・旅行会社・大学の三者が打ち合わせを重ね、学生にとって安全かつ学習効果が高い研修を提供できるようご協力をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	長久手キャンパス用 http://pnavi.aasa.ac.jp/syllabus/search/view/syllabusDetail.php?cd=389555&page=3星が丘キャンパス用 http://pnavi.aasa.ac.jp/syllabus/search/view/syllabusDetail.php?cd=389290&page=3
問い合わせ先	大学等名	愛知淑徳大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	助教
	担当者氏名	福田紗也
	電話番号	052-782-6035
	メールアドレス	fukudas@asu.aasa.ac.jp